報告

巣立ちプログラムに基づく１年次学生を対象とした キャリア教育の実践と２年次授業における PBL の試み

田中徳一 [1)]　成行義文 [2)]　平井松午 [3)]　山野明美 [1)]
[1)] 徳島大学就職支援センター・キャリア教育推進室
[2)] 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部
[3)] 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

（キーワード : 巣立ちプログラム，キャリアプラン，授業アンケート，課題解決型授業，授業コメント）

Implementation of education for first grade and an attempt of problem based learning For second grade based on career education program of The University of Tokushima

Tokuichi TANAKA[1)], Yoshifumi NARIYUKI[2)] , Shogo HIRAI[3)] and Akemi YAMANO[1)]
[1)] Career Support Center, The University of Tokushima
[2)] Institute of Technology and Sciences, The University of Tokushima
[3)] Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima

(Key words: career education program of the University of Tokushima, career plan, evaluation of career class, problem based learning, student's comment for career class)

1. はじめに

徳島大学では 2011 年 4 月から，4 年一貫のキャリア教育プログラムである「自らの就業力を促す巣立ちプログラム」[1)]を実践している。

巣立ちプログラムの目的は，学生の就業力（自らの適性・能力に合った希望する職に就き，業務を自律的に遂行し続ける力）を育成するためのキャリア教育体制を構築するとともに，就職支援体制を確立することにある。

巣立ちプログラムに基づくキャリア教育体系は表 1 に示すように，6 科目で構成されており，1 年次の「キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ」は必修（各 2 単位）となっている。さらに 2 年次からの「キャリアプランⅠ・Ⅱ・Ⅲ」および「短期インターンシップ」（全て選択科目）の中から 1 科目以上の履修が義務付けられている。

「巣立ちプログラム」も 2 年目に入り，2012 年度は 1 年次科目に加えて新たに 2 年生を対象とした「キャリアプランⅠ」（前期）と「キャリアプランⅡ」(後期)が開講されている [2)]。

ここでは，まず昨年度（2011 年度）実施した「キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ」に関する実施内容を報告するとともに，授業アンケート調査結果から問題点を抽出する。

また，2012 年 4 月に開講した 2 年次「キャリアプランⅠ」では，これまでの講義型式を中心とした授業に加え課題解決型授業（PBL）を実施した。内容は，経済新聞から課題となる記事を選定し，グループ単位で「現状と課題，対策」について取りまとめ，全員の前でプレゼンテーションを行うものである。ここでは，キャリアプランⅠの授業計画並とともに，授業アンケートならびに授業コメントから得られた成果についても報告する。

表１　巣立ちプログラム

学年	学期	科目名	内　容	単位数	
1年	前期	キャリアプラン入門Ⅰ	: 大学生活と人生設計 : 職業と人生	必修2単位	
	後期	キャリアプラン入門Ⅱ	: 立ち位置確認 : 適性把握	必修2単位	
2年	前期	キャリアプランⅠ	: 職業意識の形成 : 基本技能の習得	選択1単位	1単位以上必修
	後期	キャリアプランⅡ	: 就職活動の意味と方法	選択1単位	
3年	前期	短期インターンシップ	: 事前学習（マナー等） : 短期学外実習	選択2単位	
	後期		（就職活動の実践）		
4年	前期				
	後期	キャリアプランⅢ	: 就活総括 : 後輩への伝承	選択1単位	

2. キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱの実施状況

2. 1 キャリアプラン入門Ⅰ（2011 年度 : 1 年前期）

表 2 は 2011 年度におけるキャリアプラン入門Ⅰ（1 年次前期）の両学部の授業内容を示している。

表 2　キャリアプラン入門Ⅰ授業内容

回	総合科学部	工学部
1	授業の進め方について	授業ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
2	総合科学部で何を学ぶ	キャリア学習ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ利用法
3	大学と地域のコラボレーション	社会人基礎力とは
4	高校と大学での学びの違い	新聞を使って「考え抜く力」を養う
5	読書と人生	ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
6	レポートの書き方	技術者の倫理
7	社会人になるということ	技術者と企業
8	巣立ちﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとは	企業と使命
9	キャリア学習ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ利用法	社会の仕組み
10	求められる社会人基礎力	企業を取り巻く環境の変化①
11	ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	企業を取り巻く環境の変化②
12	ﾈｯﾄﾜｰｸと大学	企業とその戦略
13	地域産業と職業	技術者として先輩の話を聞く
14	大学と企業次世代の若者へ	技術者として自からの夢を語る
15	全体のまとめ（総括授業）	ﾗｲﾌﾌﾟﾗﾝの作成

表 3　キャリアプラン入門Ⅱ授業内容

回	総合科学部	工学部
1	授業ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	授業ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ
2	適性把握演習（テスト実施）	さまざまな業種・職種
3	キャリアプラン・ライフプラン	コンピテンシーの意義と考え方
4	キャリアプラン体験講座①	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵのｺﾝﾋﾟﾃﾝｼｰ設定
5	キャリアプラン体験講座②	適性・基礎学力把握演習①
6	適性把握演習（テスト解説）	適性・基礎学力把握演習②
7	コンピテンシーの意義と考え方	適性・基礎学力把握演習③
8	学科別の基礎学力養成講座	適性・基礎学力把握演習④
9	学科別の基礎学力養成講座	キャリアプラン・ライフプラン
10	学科別の基礎学力養成講座	キャリアプラン体験講座①
11	学科別の基礎学力養成講座	キャリアプラン体験講座②
12	学科別の基礎学力養成講座	経済新聞の読み方
13	学科別の基礎学力養成講座	新聞から会社の実力を知る
14	学科別の基礎学力養成講座	新聞から会社の戦略を知る
15	学科別の基礎学力養成講座	総括授業

以下に各学部の講義概要を示す。

【総合科学部】学部を取り巻く社会環境および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し，有意義な学生生活を構築するとともに，将来の就職について考えるうえで必要な素養と能力を養うことを目的としている。

前半（1～8 回）では，学部専任教員が大学・学部並びに学習方法について講義をした。後半（9～14 回）は，キャリア学習ポートフォリオ利用法，求められる社会人基礎力，ビジネスコミュニケーションならびに外部講師による「地域産業と職業」「ネットワークと社会」「地域産業と職業」などの授業を通して，社会で求められる人物像についての講義が行われた。

【工学部】技術者を取り巻く社会環境について講義し，技術者を目指す新入学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに，将来の職業について考えるうえで必要な素養と能力を養うことを目的としている。

キャリアプラン入門Ⅰでは，学生に将来の職業がより具体的にイメージできるよう多数の企業・団体の外部講師を招聘して，各学科に関連する授業を行うところに本授業の特色がある。

各学科の専門性と企業が置かれている現状を知るとともに，各企業の魅力を直接聞くことで，将来に向けて具体的な就職イメージと，職業観を養うことができる。また，この授業を通して，徳島県内にも全国的に高いシェアの製品を持つ企業や，高度な技術を持つオンリーワン企業が数多く存在することなど，学生にとって将来を考える上で重要な「気づき」や「発見」がたくさんあった。

2.2 キャリアプラン入門Ⅱ（2011 年度：1 年後期）

表 3 は 2011 年度におけるキャリアプラン入門Ⅱ（1 年後期）の両学部の授業内示している。以下に各学部の講義概要を示す。

【総合科学部】前半の（1～7 回）は学部共通の合同講義であり，まず客観的に自分の能力や興味を把握して今後の進路目標に役立てるための適性把握演習が行われた。この結果が「なりたい自分」を考える手がかりとなり，目標に向けて行動計画を立てるスタートとなっている。さらに，キャリアプラン体験講座を通して学生個々に自らの職業観について考える機会を提供した。

次に，コンピテンシーの意義・考え方について学び，各自が必要と思われるコンピテンシー項目をポートフォリオへ入力して，企業・団体へのアンケート調査による標準指標と比較した。

後半は，学科別の小クラスに分かれ，ゼミナール形式で授業が実施される。

【工学部】まず「さまざまな職種・業種」を学び，次いで各自の適性・基礎学力演習によりその時点における能力把握を行った。

コンピテンシーの意義と考え方では，各業種で必要とされている行動特性について学ぶとともに，web 版ポートフォリオのキャリアデザインに自らの能力レベルを入力することで，標準指標との比較を行った。

次いで，キャリアプラン体験講座では，キャリアプラン，ライフプランに対する基本的な視点を学び，自らのキャリアプランの作成を行った。

さらに，企業環境の変化，実力を読み取る力を養うために，経済新聞を教材にして「経済新聞の読み方」から「新聞から会社の実力を知る」さらには「新聞から会社の戦略を知る」へ授業を展開した。

この授業からは，企業は生き物であり「成長・停滞・衰退」を繰り返すことや，ビジネス形態には直接消費者と関わる「B to C」だけでなく，企業を相手にしたビジネス活動「B to B」があり，多くの企業が連携してモノづくりを支えていることを学ぶ。

3. キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱの授業評価

3.1 キャリアプラン入門Ⅰ授業評価

2011 年度の「キャリアプラン入門Ⅰ」および「キャリアプラン入門Ⅱ」の授業アンケート抜粋し，それぞれ表 4 および表 5 に示す。

なお，これらのアンケートは，大学で実施している共通の授業評価アンケートとは別に，キャリア教育推進室が独自に行ったものである。回答総数は 826 人であり，内訳は総合科学部 232 人，工学部 594 人であった（表 4 参照）。

表 4 中№1 より，「本授業はあなたの進路を考える上で役に立ちましたか」に対し，役に立ったと答えた学生は，総合科学部で 73.3%，工学部で 55.9%と，ともに過半数は越えているものの，両学部で評価に大きな差が生じている。この原因として，キャリアプラン入門Ⅰでは，表 3 に示す通り総合科学部と工学部では授業内容が異なっており，特に工学部では企業倫理をはじめとして，職業に関する専門性の高い授業内容となっていることが考えられる。

同表中№3 から，本授業により将来の職業・就職に関す不安が小さくなったと感じている学生は約 1/4 であることが分かる。これは授業を通して知識を得，現状を理解することで，むしろ職業に関する認識を深めたためと思われる。

同表中№4 からは，この授業を通して，とりわけ若年層に不足していると言われている「社会人基礎力」の必要性を強く感じていることが分かる。その割合は，総合科学部で 93.5%，工学部で 88.9%に上っている。

表 4　「キャリアプラン入門Ⅰ」授業アンケート

№	質内容問（抜粋）	学科	はい（%）	いいえ（%）	どちらともいえない（%）
1	本授業はあなたの進路を考える上で役に立ちましたか	総科	73.3	6.5	20.2
		工学	55.9	14.0	30.1
		全体	60.8	11.9	27.3
2	本授業で、大学での学習目標が明確になりましたか	総科	44.8	14.2	41.0
		工学	40.7	22.4	36.9
		全体	41.9	20.1	38.1
3	本授業で、将来の職業、就職に対する不安は小さくなりましたか	総科	23.7	38.8	37.5
		工学	26.1	39.9	34.0
		全体	25.4	39.6	35.0
4	社会人基礎力（就業力）の向上は必要と考えますか	総科	93.5	1.3	5.2
		工学	88.9	2.9	8.2
		全体	90.2	2.5	7.4
5	Web版ポートフォリオは使いやすかったですか	総科	40.1	21.1	38.8
		工学	34.4	31.2	34.4
		全体	36.0	28.4	35.6
6	Web版ポートフォリオは今後も活用していこうと考えますか	総科	37.9	19.8	42.3
		工学	18.2	34.2	47.6
		全体	23.7	30.2	46.1

回答数826（総科：232 工学594）

同表中№5 より，Web 版 ポートフォリオの使用性は必ずしも高くないことがわかる。その主な原因は，アクセスが学内に限定されていたことにある。これに関しては 2012 年度後期からは改善されており，学外からのアクセスが可能になっている。

同表中№6 の結果からは，Web 版ポートフォリオの活用面での意識は低いことが分かる。本授業では毎回授業コメントの入力を義務付けているが，ポートフォリオ本来の有用性・利便性がこの段階では十分に理解されているとは言えない。

3.2 キャリアプラン入門Ⅱの授業評価

アンケート回答総数は 775 人であり，内訳は総合科学部 236 人，工学部 539 人であった。（表 5 参照）

表 5 中№1 は前出のキャリアプラン入門Ⅰ(前期)の授業評価と同じ質問であるが，その評価結果は，総合科学部と工学部で逆転していることが分かる。

総合科学部では，キャリアプラン入門Ⅱの後半は各ゼミに分かれている。このため，工学部で実施されている「さまざまな業種・職種」，また経済新聞を使っての「記事の読み方」，「会社の実力を

表 5　「キャリアプラン入門Ⅱ」授業アンケート結果

No.	質内容問（抜粋）	学科	はい（%）	いいえ（%）	どちらともいえない（%）
1	本授業はあなたの進路を考える上で役に立ちましたか	総科	52.1	17.4	30.5
		工学	75.2	7.9	16.9
		全体	68.2	10.8	21.0
2	本授業で行った、自らの基礎学力や適性能力を評価する適性検査（筆記試験）は必要と考えますか	総科	85.6	4.7	9.7
		工学	82.4	5.4	12.2
		全体	83.4	5.2	11.4
3	本授業で、将来の職業、就職に対する不安は小さくなりましたか	総科	16.2	41.3	42.5
		工学	26.9	41.0	32.1
		全体	23.6	41.1	35.3
4	本授業を通して、自分の職業観やキャリアデザインは醸成されましたか	総科	43.0	13.6	43.4
		工学	43.9	16.1	40.0
		全体	43.6	15.3	41.0
5	Web版ポートフォリオは使いやすかったですか	総科	36.4	21.6	42.0
		工学	38.7	25.6	35.7
		全体	38.0	24.4	37.6
6	本授業を通じて、1年前期「キャリアプラン入門Ⅰ」受講時よりも就業力に関する関心は高まりましたか	総科	79.1	6.0	14.9
		工学	73.8	7.9	18.3
		全体	75.4	7.3	17.3

回答数775（総科：236 工学539）

表 6　両授業を通じての授業アンケート結果

No.	質問内容（抜粋）（キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱを通じて）	学科	そう思う（%）	ややそう思う（%）	あまりそう思わない（%）	そう思わない（%）	わからない（%）
1	両授業を通じて，企業・自治体等の外部講師による講演は参考になりましたか	総科	29.7	56.4	10.8	2.2	0.9
		工学	39.8	48.2	8.4	2.1	1.5
		全体	36.7	50.7	9.1	2.1	1.3
2	両授業を通じて，社会に対する関心が高まりましたか	総科	31.2	55.0	10.4	1.7	1.7
		工学	40.0	46.9	10.7	1.3	1.1
		全体	37.3	49.4	10.6	1.4	1.3
3	両授業を通じて，社会的，職業的に自立していこうとする自覚が高まりました	総科	38.1	51.1	6.9	2.2	1.7
		工学	35.0	49.3	12.4	1.9	1.4
		全体	36.0	49.9	10.7	2.0	1.5
4	在学中に，社会体験やインターンシップに積極的に参加しようと思いますか	総科	39.2	45.1	12.0	1.6	2.1
		工学	29.7	44.4	15.8	5.9	4.2
		全体	32.6	44.6	14.6	4.6	3.6
5	両授業を通じて，学習に対する意欲が高まりましたか	総科	28.0	48.7	16.8	3.9	2.6
		工学	27.8	44.0	19.2	5.3	3.7
		全体	27.9	45.4	18.5	4.9	3.4
6	両授業を通じて，学習支援に関わる個別指導やポートフォリオを積極的に活用するようになりましたか	総科	7.8	29.0	38.5	22.9	1.8
		工学	14.3	28.2	31.2	21.9	4.4
		全体	12.3	28.4	33.4	22.2	3.6

回答数775（総科：236 工学：539）

知る」および「会社の戦略を知る」など，実践的な授業は行われていない。このことが，キャリアプラン入門Ⅱの授業アンケート№1 への回答に反映されていると考えられる。

同表中№2 より，両学部とも 80%以上の学生が，基礎学力や適性能力を調査する適性検査の必要性を感じていることが分かる。学生は筆記試験を通して，基礎学力や適性を定量的に評価されることで，どのような能力が不足しているかを知りたがっていると考えられる。

同表中№3 は，前期キャリアプラン入門Ⅰの№3 の質問（表 4）と同じ内容の質問である。この結果から，将来の職業・就職に関する不安はこの時点でも解消されておらず，むしろ，増幅する傾向にあることが分かる。これは，キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱを通して，より早い時期に学生の就職に対する関心が高まっていることを示していると考えられる。

同表中№4 の質問では，「はい」と答えた学生は 43.6%と半数以下にとどまっており，この段階では，職業観・キャリアデザインの醸成が十分に出来ていないことが分かる。このことが，№3 の「将来の職業・就職に対する不安」の要因の一つであると考えられる。

同表中№6 から分かるように，前期のキャリアプラン入門Ⅰの受講時に比べ，後期のキャリアプラン入門Ⅱの受講により，総合科学部・工学部とも 70%以上の学生が就業力に関する関心が高まったと答えている。№3 と№6 から，就業力に関する関心の高まりにつれて，将来の職業・就職に関する不安も増していると推察される。

3.3 両授業を通じての授業アンケート

表 6 は，「キャリアプラン入門Ⅰ（前期）」と「キャリアプラン入門Ⅱ（後期）」の双方を通しての質問であり，「キャリアプラン入門Ⅱ」の最後の授業時（総合科学部は前半 7 回目，工学部は 15 回目）に実施した。

表 6 中№1 から分かるように，“外部講師による講演が参考になったか”との質問に対し，「そう思う」36.7%と「ややそう思う」50.7%を合わせた 87.4%の学生が，参考になったと答えている。各種団体・企業から派遣された講師による講演は，学生にとって初めての体験であり，興味を持って受講していることがうかがえる。

同表中№2 の結果から，“両授業を通じて社会に対する関心が高まりましたか”の質問には，「そう思う」37.3%と「ややそう思う」49.4%を合わせた 86.7%の学生が社会に対する関心を高めていることが分かる。これは，実社界で活躍する多くの外部講師から直接，社会・企業に関する情報を得たことが要因の一つであると考えられる。

同表中№3 の“社会的・職業的自立への自覚”についても，№2 同様に 90%弱の学生が，自覚が

高まったと答えている。このことより，キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱを通してさまざまな情報・知識を得ることで，社会への関心ならびに社会的・職業的自立へ向けての自覚が高まったことが分かる。

同表中№4 の“社会体験やインターンシップへの参加”は，「そう思う」，「ややそう思う」を合わせた 77.5％の学生が，積極的に参加したいと答えている。これは，授業を通して社会への関心が高まるとともに，社会的・職業的自立へ向けての自覚が高まったためと考えられる。

同表中№5 の“学習に対する意欲”では，「そう思う」，「ややそう思う」を含めた約 3/4 の学生の学習意欲が高まったと答えており，キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱの受講が，学生の学習意欲を刺激したことが分かる。

同表中№6 から，“学習支援に関わる個別指導やポートフォリオの積極的な活用”はあまり行われていないことが分かる。学習記録の授業コメント・レポートコメントは，採点対象になっているため，最小限の活用は行われているものの，現時点では個別指導体制はとれていない状況にある。キャリア教育においては，ポートフォリオを積極的に活用させるためにも，個別指導体制の確立が今後の課題である。

4. キャリアプランⅠの実施状況

4.1 求められるキャリア教育での能動型授業

キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱに対するアンケート結果から，これらの授業を通して，社会人基礎力向上の必要性や基礎学力を評価する適性検査の有効性等を，多くの学生が認識したことが分かる。

一方，前出のように「本授業で，将来の職業・就職に対する不安は小さくなりましたか」の質問に対しては，キャリアプラン入門Ⅰで「はい」と答えた割合が 25.4％と低く，「いいえ」と答えた割合（39.4％）を下回っている。

さらに，適性・基礎学力把握演習，キャリアプラン体験講座など，実践的な授業内容のキャリアプラン入門Ⅱの履修後も，同様の質問に対し「はい」と答えた割合が 23.6％と，将来の職業・就職への不安はわずかながら増大している。

アンケート結果より総合的に判断して，多くの学生は授業を通してさまざまな情報を得ることができ，将来の進路を考える上で学んだことが役立っていると感じているようである。しかし一方では，職業に関する認識を深めることで将来への不安は解消されておらず，むしろ増加している。

その原因の一つとして，キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱではオムニバス方式の講義が中心で，知識・情報収集が中心の，受動型の授業に偏っていることが考えられる。

自らが主導的に参加し，具体的に何かをやり遂げる機会が少ないことから，多くの学生は知識や情報を習得しても自信には結びついておらず，将来の職業・就職に対する不安の解消や，自信にはつながっていない。

現実社会で起きている出来事に対し，学生自らが課題を見つけ，思考力や表現力を駆使し，自分なりの対策を考える体験が必要である。そのための課題解決型授業（以下 PBL）のような能動型授業を取り入れる工夫が求められている。

4.2 PBL を取入れたキャリアプランⅠの授業計画

キャリアプランⅠは，1 年次開講のキャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱに引き続いて，2 年次前期に「職業意識の形成と基本技能の習得」を目的として開講されており，合同クラスを基本とし，授業は両学部とも共通の内容で行なわれている。

本年度の授業は履修希望者数ならびに各学科の時間割等を勘案し，結果的に総合科学部と工学部の合同クラス（2G1）と，工学部光応用工学科と生物工学科を主な対象とするクラス（2 G 2）の 2 クラスで実施した。各クラスの履修者は学部合同クラス（2G1）で，総合科学部 105 人，工学部 141 人の計 246 人であった。一方，工学部の単独クラス（2 G 2）では時間割の関係から 93 人となっている。

2012 年度 2 年次キャリアプランⅠでは初めての試みとして，経済新聞を使った PBL を取り入れた授業計画とした。

キャリアプランⅠは表 7 に示す通り，まず授業ガイダンスに続いて就職環境の知識習得と企業に求められる人材についての授業を行う。

次に，6 回目から 3 回にわたり，さまざまな企

表 7　キャリアプラン I 授業計画

回	授業内容
1	授業ガイダンス
2	就職環境の変化と情報収集
3	企業に求められる人材とは
4	経済新聞を用いた資料収集・分析方法
5	プログ分析・解説＆ジェネリックスキル
6	ジョブリサーチ講座(1)
7	ジョブリサーチ講座(2)
8	発表資料，進捗確認・指導
9	ジョブリサーチ講座(3)
10	日本語力（エントリーシート）演習
11	コミュニケーション演習
12	発表用資料整理・分析まとめ
13	プレゼンテーション演習(1)・発表
14	プレゼンテーション演習(2)・発表
15	プレゼン(3)・発表　総括授業

業・団体を対象としたジョブリサーチ講座を計画しており，人事部門，総務部門，製造部門など多くの分野での職種を中心とした情報収集を目的としている。

ジョブリサーチ講座では特定の業界情報や就職情報だけでなく，ひとつの企業の中にも多くの職種が存在し，それぞれの職種が仕事を通してどうかかわっているかなど，さまざまな情報の収集を行う事ができる。

続いて，10 回目はエントリーシート作成演習を中心とした読み手に伝えるための日本語力を学び，11 回目ではコミュニケーション演習により，自分の長所・考えなど，聞き手に対し正確に伝えるための話し方を学ぶ内容になっている。

4.3 経済新聞を使った PBL の取り組み

キャリアプラン I は，全 15 回中 6 回の講義を経済新聞を使った PBL の授業にあてている。

表 8 に示す通り，PBL の初回授業となる 4 回目の授業で当日の経済新聞朝刊を配布するとともに，授業内容の目的・手順の説明に続いてグループ編成を行い，グループごとに担当する紙面を割り当てる。この段階では各自が指定紙面の興味のある課題に沿って情報収集・分析をおこなう。

8 回目の授業では，これまで各自で取りまとめたスクラップ資料を基に，グループで相談のうえ発表する資料のテーマを決定する。12 回目までに発表するテーマに沿った資料収集を行い，続いて PPT の作成に取り掛かる。

最後の 3 回は，各グループとも持ち時間の 5 分でプレゼンテーションを行うが，プレゼンテーションにはグループ全員の参加を義務付けている。

PBL の 1 回目となる「第 4 回：経済新聞を用いた資料収集・分析」（表 8 参照）では，当日の経済新聞とスクラップブック（日経 MP の協力で徳島大学オリジナル版を作成）を各自に 1 部ずつ配布する。完成したスクラップブックは採点対象としている。

また，経済新聞は，朝刊だけで約 25 万字（40 ページ）の情報が掲載されている。このため，必要な情報を効率的に入手するためにまず「経済新聞の読み方講座」を実施し，経済新聞についての基礎知識を学習する。

次に，6 人を一組とするグループ分けを行い，各グループが担当する紙面を，抽選により決定した。紙面の分類は，1 面・総合面・経済面・企業広告・生活消費・国際面・企業総合面など全 16 種類を対象とした。以降すべての作業はプレゼンテーションまでをグループ単位で行うことになっている。

2 回目の PBL となる「第 8 回：発表資料の確認，進捗確認・指導」では，各自が収集した記事の中から，発表するテーマとなる記事を話し合いの上一本化し，プレゼンテーションのための資料収集を開始する。その際，1 面と総合面あるいわ経済面など，双方に関連記事が掲載されている場合は，グループ間で同じテーマを取り上げることになるが，各グループが取り上げるテーマに対する調整は行わない。

3 回目の PBL となる「第 12 回：発表資料整理，分析取りまとめ」では，各グループで取り上げたテーマに対し，“なぜその記事を取り上げたのか，その背景・課題は何か，解決策はどうすべきか”，についての取りまとめを行う。ついで，取りまとめ結果を基にプレゼンテーションのための PPT の作成を行う。

13 回～15 回目のプレゼンテーション①～③での各グループの発表は，全員参加を原則とし，プレゼンテーションに対する評価は，「態度」・「説得

力」・「スライド内容」の項目について，発表グループを除く全グループが評価を行う。

図 1 に今年度のプレゼンテーション実施風景を示す。

表 8　経済新聞を使った PBL の概要

回	授業内容	内容詳細	新聞
4	経済新聞を用いた資料収集・分析	①当日の経済新聞の第1回配布②スクラップブック(オリジナル版)の配布③経済新聞の読み方・スクラップブックの利用法の解説④発表グループの編成と担当紙面の割りあて（抽選による、紙面の分類は総合面、経済面、生活、スポーツ、社会など全16種類）	◎
5		各自が授業外に単独で作業	◎
6		各自が授業外に単独で作業	◎
7		各自が授業外に単独で作業	◎
8	発表資料の確定、進捗確認・指導	これまでに個人で取りまとめたスクラップ資料から、発表する課題をグループで話し合いの上決定する. 以降は決定した内容にそった記事を中心に、スクラップ・資料収集を行う.	◎
9		各自が授業外にグループで作業	◎
10		各自が授業外にグループで作業	◎
11		各自が授業外にグループで作業	◎
12	発表資料整理、分析取りまとめ(プレゼンテーションの準備)	なぜその話題を取り上げたのか、その背景・課題は何なのか、今後どのようにしたら良いのかが、表現されたパワーポイントの作成.	○
13	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの実施（グループ持ち時間5分）	○
14	プレゼンテーション②	プレゼンテーションの実施（グループ持ち時間5分）	○
15	プレゼンテーション③	プレゼンテーションの実施（グループ持ち時間5分）	

◎は教材として個人で購入
○は資料として支給

図 1　プレゼンテーション風景

表 9「キャリアプラン I」授業アンケート結果

質問内容	能力・体験	総合科学部(%) 回答者数(91名)	工学部(%) 回答者数(171名)
A. 本授業を通して向上したと思われる能力	①企業・就職情報収集能力	16.4	22.5
	②ジョブリサーチ講座による業界動向、求められる人物像の把握力	40.0	34.0
	③コミュニケーション能力	17.2	15.7
	④情報収集・分析能力、プレゼンテーション能力	26.4	27.8
B. 将来に向けて役に立ったと思われる授業体験	企業に求められる人材、就職環境の変化と情報収集	27.2	28.9
	ジョブリサーチ講座による業界動向、求められる人物像の把握	25.3	29.5
	コミュニケーション・エントリーシート	24.0	20.3
	経済新聞を用いた情報収集演習、取りまとめ、プレゼンテーション	23.5	21.3

4.4 キャリアプラン I の授業評価

4.4.1 授業アンケート

キャリアプラン I では授業最終日にアンケートを実施した。ここでは，授業効果の確認ならびに授業改善に関連する 3 項目の質問と回答について示す。

【質問 1】: 本授業を通して，どのような能力が向上したと思いますか。2 つまで選んでください。（表 9-A）

【質問 2】: キャリアプラン I の授業で，役に立ったと思われる授業体験を 2 つまで選んでください。（表 9-B）

【質問 3】: この授業を通して社会人基礎力は向上しましたか。向上したと思われる項目を 3 つまで選んでください。（図 2）

質問 1（表 9-A）に対する回答として，企業・団体から講師を招聘しての「②ジョブリサーチ講座による業界動向・求められる人物像の把握力」が最も多く，工学部では 34.0%，総合科学部では 40.0%の学生が選んでいる。

キャリアプラン I での企業・団体の講師による「さまざまな職業・職種に関する講演や企業が今求める人材」の授業に関しては，学生の関心の高さとともに，学生が必要とする情報が数多く得られていることもうかがえる。

また，PBL の一環で実施した④「経済新聞を用いた情報収集・分析・プレゼンテーション」が，工学部 27.8%，総合科学部 26.4%と続いている。さらに，その他の能力についても 15%以上の学生

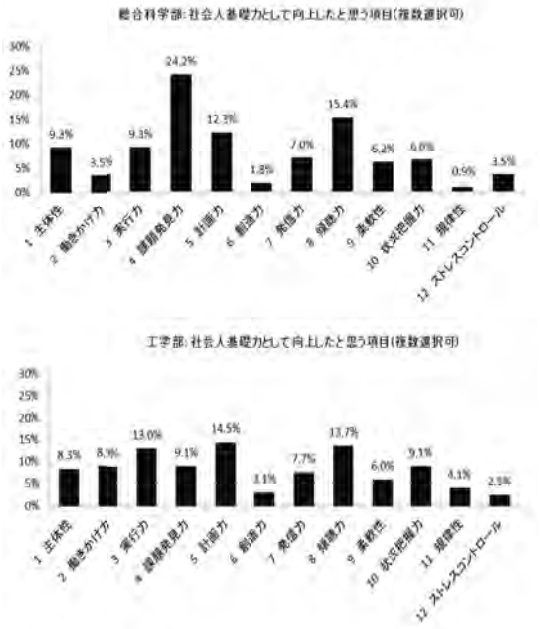

図 2　社会人基礎力アンケート

が選択しており，学生は何らかの能力向上を実感していることが分かる。

質問 2 は，役に立ったと思われる授業体験に関するもので，今後の授業改善に関連する質問である。表 9-B に示すように各項目とも総合科学部，工学部それぞれ 20%台で 均衡しているが，両学科共「企業に求められる人材， 就職環境の変化」と「ジョブリサーチ講座」が上位を占めている。

キャリアプラン I では，自らも参加する能動的な PBL 形式の授業に高い関心を持っている。一方，キャリアプランの目標の一つである職業選択に関する意識形成では，基本技能の習得だけでなく職業に関する最新情報について関心が高いことが分かる。

質問 3 は，社会人基礎力の 12 項目のうち，この授業を通してどの能力が向上したかを問うものである。社会人基礎力はキャリアプラン入門 1 の授業を通して 90%の学生がその必要性を認識している。またポートフォリオを使って社会人基礎力の自己評価も体験している。

キャリアプラン I の初回ガイダンスでは，社会人基礎力の自己評価アンケートを実施しており，社会人基礎力の内容について意識づけを行ったうえで，この授業を開始している。その結果，図 2 から分かるように，工学部では計画力（14.5%），聴力（13.7%），実行力（13.0%）の向上が上位を占め，総合科学部では課題発見力（24.2%），傾聴力（15.4%），計画力（12.3%）が上位となっている。

計画力，傾聴力は両学部とも上位であるが，課題　発見力は総合科学部の 24.2%に対して，工学部では 9.1%と半数以下となっているのが特徴的である。

学生自らの自己評価により能力が向上したと思われる項目は，いずれも PBL の一環として経済新聞を用いて行った資料収集，取りまとめ，プレゼンテーションなど，授業の中で取り組んだ内容と関連した項目である。

キャリアプラン I の特徴である課題解決型（PBL）の取り組みは，両学部で向上の程度には若干差異があるものの，社会人基礎力のうち「実行力」，「課題発見力」，「計画力」，「傾聴力」等を中心に多くの能力・特性が向上していると言える。

4.4.2 ポートフォリオの授業コメント

キャリア教育科目では，15 回すべての授業について，それぞれポートフォリオ「授業コメント」への入力を義務付けている。

この「授業コメント」には，授業アンケートだけでは得られない内容の感想，意見が数多く記載されており，授業の改善につながる貴重な情報となっている。

ここでは，キャリアプラン I の後半，（第 13 回～第 15 回）について，学生がポートフォリオに入力した「授業コメント」の幾つかを紹介する。

なお，コメント中の下線部は，授業による学生の気づきならびに自己評価等，今後の授業改善・方向付けに有用な内容と思われる個所である。また，教員として勇気づけられるコメントも多い。

＜①キャリアプラン I 授業コメント（学生 A）＞

今回の授業が最後の回となった。残りのグループのプレゼン発表を聞いたが，原発問題を題材にしたプレゼンが多かったように感じた。3 週にわたり全グループの発表を聞いたが，どのグループも個性的なものが多かったように思う。このキャリ

アプランⅠの最大の長所はやはり新聞記事のスクラッチブックの作成ではなかっただろうか。この作業を通じて私は現在の世の中の状況（今回は企業が中心だった。）を知ることができたし，そこから問題と解決策を発見するための洞察力が磨けたと考えている。この作業は是非，今後も続けていってもらいたい。

＜②キャリアプランⅠ授業コメント（学生 B）＞

7 月 12 日は総合科学部のプレゼンテーションだった。私たちは大飯原発の再稼動を受けて，これからの電力供給の形と夏の電気料金プランについて発表した。たくさんのグループの発表を聞いて，テーマが原発だったり夏の節電対策だったりと自分たちとかぶっていたように思うが，しかし細かな着眼点の違いで内容が変わったりしていておもしろかった。今回新聞とインターネットから情報を集めたが，この活動を通して，多角的な視野から正しい情報を選ぶように気をつけないといけないと思った。誰の立場に立った意見かで，表現の仕方や情報量などがメディアによって操作されていると感じたからだ。とくにこうした発表の場では，正しい情報を伝えられるように注意したい。

＜③キャリアプランⅠ授業コメント（学生 C）＞

キャリアプランⅠの最後の講義でした。発表がまだ残っている班の発表を見た後，アンケートに記入しました。この前期の間，キャリア教育を受けて，一年生の時よりも自身の将来や，これから先訪れるであろう就職活動に対する意識が高まったように思います。自分の強みとは何であるのか。逆に，自分の弱みとは何であるのかを考えることができました。最後の日経新聞を用いたプレゼンテーションは，発信力や情報収集力，計画力を身につける練習になり，また新聞を通して政治・経済に目を向ける良い機会になりました。有意義な講義でした。

＜④キャリアプランⅠ授業コメント（学生 D）＞

今回の授業は，残りの工学部によるプレゼンテーションの発表だ。どのグループも様々な工夫をしていて分かりやすかった。特に印象に残っている発表は政治面を担当しているグループの発表だ。現在の政治の情勢をしっかりととらえ，分かりやすく説明していた。
この授業を通じて，私は新聞を読むという習慣が少し身に付けることが出来た。今まではスポーツ面やテレビ欄しか見ていなかった私が，最近では政治面や地域面を見るようになった。今後も新聞を読むという週間を定着させて，いろんな知識を身に付けていきたい。

＜⑤キャリアプランⅠ授業コメント（学生 E）＞

今日は最後の発表ということで，残りの班の発表を聞いた。これまでの発表を通じて，東日本大震災の問題や，消費税増税問題，ユーロ危機問題を取り上げているグループが多かったように思う。自分と同じ大学生がどういった問題に関心を持ち，また問題提起をしようとしているのかということを身を持って感じさせられた。今後就職活動を行っていくうえで，こうした新聞記事を読む習慣を身につけることや社会問題に関心を持つこと，そうした問題を自分のものとして考えていくことはとても大切なことであると感じ，今回のキャリアプランの講義は私にとってとても有意義なものであった。この講義を通じて学んだ多くのことを今後に活かしていきたい。

＜⑥キャリアプランⅠ授業コメント（学生 F）＞

今回の講義は，今期最後の授業だった。まだ発表が終わっていない班の発表と授業アンケートを記入した。発表を聞いていて，今までギリシャのユーロ危機の問題はよく分からなかったが，37 班の発表を聴いて理解できるようになった。
　プレゼン発表は分かりやすく伝えることは勿論だが，発表者がその内容について正確に理解しておく必要があるのだと感じた。授業アンケートでは，自分の社会人基礎力がどのぐらい付いたか考える良いきっかけとなった。

＜⑦キャリアプランⅠ授業コメント（学生 G）＞

今期最後の授業であった。1 年から 1 年半あった

キャリアプランの授業がついに終わりということで，色んなことが頭によぎった。今回のアンケートでもあった社会人基礎力などいずれ就職する自分たちにとって必要なスキル・知識を学ぶことができた。社会人基礎力に関しては１年からずっと取り続けていたことであったが，改めて社会人いずれなる自分にはまだまだ力が身についていないと感じた。今より成長した自分になるためにも，本当に今から頑張らないといけないと感じた。

5. おわりに

本稿では，2011 年 4 月から実施している 1 年次対象の「キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ」と 2012 年 4 月から実施している 2 年次対象の「キャリアプランⅠ」の内容と授業アンケートについて報告した。またキャリアプランⅠの中で新たな試みとして実施した大人数教室での PBL の取組み内容，授業評価ならびに授業コメントについても詳述した。

1 年次のキャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱは，必修科目のため受講者数が多く，内外の講師を主としたオムニバス方式の講義が中心となっている。このため，如何に受動的受講に陥らないかが課題となるが，授業アンケートでは，「重要さが分かった」や「大切であることが理解できた」等の回答が中心で，具体的行動に結びついているか否かの確認はできていない。

社会人基礎力の内，現実社会で多くの企業・団体に重要視されるのが，「主体性」ならびに「実行力」である。2 年次以降の「キャリアプランⅠ」等の授業では，これらを育成するための授業内容の工夫・改善が不可欠である。しかしながら，200 名を超える大人数クラスでは，教員が単独で取り組む内容にはおのずと限界があり，授業内容の選択肢も限られているという現実もある。

経済新聞を用いた PBL の試みでは，本文で報告したように各自に作成を義務づけた「スクラップブック」やグループ単位で与えた紙面を対象に，「課題抽出，背景，対策，取りまとめ」さらには「プレゼンテーション」と，ほぼ全員が参加して熱心に取り組んだ。

また，授業アンケートでも多くの学生がこの授業を通して社会人基礎力の向上を実感しており，このような授業を数多く取り入れ，体験させることで，将来の職業・就職に対する不安を小さくすることが確認できた。

さらに，キャリアプランⅠの授業を受講することで向上した社会人基礎力を，ポートフォリオの「社会人基礎力評価」に入力することにより，職種別に求められる社会人基礎力や，過去の自己評価データとの比較を行う事が出来きるため，将来へ向けてより具体的なキャリアデザインを描く事が可能となる。

文部科学省は，「企業・団体が大学に期待する教育内容」と「大学が重視している教育内容」との乖離が指摘されている状況を踏まえて，2012 年度より「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」[3)]を開始した。この事業は，産業界のニーズに対応した人材の育成の取り組みを行う大学を支援するものである。本学も，中国・四国ブロックの「産業界との連携による中国・四国地域人材育成事業」が採択され，2012 年 11 月より取り組みを開始している。

このような背景のもと，「巣立ちプログラム」のキャリア教育をより実践的で充実したものにするためにも，学内にとどまらず地域の各種企業・団体等と協力して，より効果的な課題解決型の授業等を開発・適用することで，学生の就業力がさらに高まることが期待される。

参考文献

1) 平井松午・成行義文・田中徳一・山野明美：学生自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム，徳大広報とく talk，149，1-2，2012.
2) 田中徳一・成行義文・平井松午：自らの就業力を促す巣立ちプログラムとそれに基づく初年次キャリア教育の実践，大学教育研究ジャーナル，9，141-151，2012.
3) 文部科学省，2012 年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の選定状況につて，http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sangyou/1325888.htm，2012.